

5章2節2 現代文(小説)「デューク」

酒井将平

教科:[国語]/科目名:[現代文] / [2]学年対象・[2]単位	
出題する考査	[1]学期[期末]考査
該当する单元等	小説『デューク』(江國香織)
出題意図 (レベル)	問一①:読み取ったことを特定の枠組みに当てはめる。(C) 問一②:枠組みの批判的な検討。(C) 問二①:既習作品との共通点から「ドラマを生み出す仕掛け」を抽出する。(C) 問二②:「ドラマを生み出す仕掛け」を生活に生かす。(E)
<p>本文は割愛します。 問題文には段落番号を振っています。</p> <p>問一、ジョン・ボウルビィは大切な存在を失った後のプロセスとして以下の四つの段階を示した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、無感覚と情緒危機:死を受け止めることができない。信じることができない。 2、思慕と探究:死を受け止め始めるが、充分ではなく、深い悲しみが始まる。 3、混乱と絶望:死を受け入れる。深い絶望や失望が生まれる。 4、再建:生活を立て直す。 <p>①「私」の心の変化を上記の四つの段階に当てはめて考えたとき、三番目の段階に当てはまるのはどの段落か、本文中に示した段落番号で答えよ。</p> <p>②大切な存在を失った後のプロセスを、この四つの段階に当てはめて考えることに対しては批判もある。それはなぜか答えよ。</p> <p>問二、『デューク』(江國香織)には「ドラマを生み出す仕掛け」が使われている。</p> <p>①『調律師のるみ子さん』(いしいしんじ)や『羅生門』(芥川龍之介)と共通する「仕掛け」を指摘せよ。</p> <p>②指摘した「仕掛け」を使って、自分の人生のどのような場面で、どのように活用できるかを説明せよ。</p>	
採点基準 (配点)	問一①(2点):第三段落 問一②(2点):一人一人のプロセスは異なるから。 問二①(2点):「『夕方』という時間帯を上手に使っている。」等。 *共通している「ドラマを生み出す仕掛け」を抽出していれば正解。 問二②(2点): *場面と活用方法が明確であり、整合性があれば正解。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・江國香織(1996)『デューク』「つめたいよるに」新潮文庫,p.11-20 ・実際の試験問題として出題することはできなかった。 ・「近くに大切な存在を亡くして悲しんでいる人がいた場合、どう接することができるか？」を授業で扱いました。クラスメイトの考え方にどのような共通点や相違点があるかを授業で扱いました。それらを踏まえた作問です。 ・「ドラマを生み出す仕掛け」とは、物語をドラマチックに展開するための仕掛けとして授業で扱ったものです。